

勿忘 ～ 忘れてはいけないもの ～

副校長 我妻 智之



勿忘草

『勿忘』(わすれな)と読むのだそうです。お昼の放送でも流された曲の題名です。「大切な君との思い出をずっと忘れずにいたいよ」という想いが、美しく切ないメロディーで表現されています。昔、流行った曲の中には「人は悲しいくらい忘れていく生き物」というフレーズもありました。『人の記憶』について扱った作品は、映画や文学にも多く、私たちにとって「忘れずにいること」というのは、とても重要なテーマなのだと思います。

9月1日から始まった夏休み明けの授業は、新型コロナウイルス感染予防のため、基本的に全て分散登校で行われました。ある担任に聞いた話ですが、登校日の違うクラスメイトあてに、毎日のように手紙を書いて机にそっと置いて帰る生徒がいたそうです。「学校で会うことはできなくても、あなたのことを忘れずにいるよ」というメッセージが伝わったことでしょうか。16日から行われた定期試験も、変則的な形になってしまいましたが、それでも精一杯準備をし、落ち着いて整然と試験を受けている姿に大変感動しました。こういう非常時であるからこそ、人に対する思いやりや自分のすべきことに前向きに取り組もうとする意志をどうか忘れないでください。

また、今月は「3年修学旅行」「合唱コンクール」などの学校行事の断念・中止をお伝えさせていただきました。まさに苦渋の決断でしたが、今後も社会情勢を踏まえながら、「感染予防」と学校での「教育活動」の両立をめざして、さまざまなことを検討していかなくてはなりません。

心配なことは、学校行事に取り組んできた台中生としての記憶が途絶えてしまうことです。

本来ならば、さまざまな困難を乗り越えてクラスや学年、学校全体が一つにまとまる感動があり、下級生たちも「来年こそは先輩たちようになる！」という想いをもつことで、日吉台中の伝統を作ってきたはずです。しかし来年になると、壮大なホールに精一杯歌声を響かせたことや、楓祭として体育館のステージ発表でみんなが盛り上がったことも、クラスや部活動などで文化祭に向けてたくさん練習したことも、記憶している生徒はだれもいなくなってしまう。

コロナ前にはできていたさまざまな活動を、どのようにして繋いでいけばよいのでしょうか。

幸いなことに、6月には「第74回体育祭」を実施することができました。みんなで体を動かして競い合う緊張感や躍動感、最後までやり切ったときの達成感、クラスの仲間や一生懸命頑張っている人を応援するときの熱い思い、これらは生徒のみなさんの心の中に記憶として刻まれ、「また来年も頑張ろう！」という気持ちが残ったはずです。感染対策として規模を縮小しながら、やり方を工夫しながら、それでもみんなで思い出に残る行事ができたことを忘れてはいけません。

これからも、今まで当たり前のようにあったことがなくなることがあるかもしれませんが、ともに過ごす仲間がいることに感謝しつつ、知恵をしぼって、新しいスタイルをできるところから探していきましょう。

2年前、社会がこのような状況になるとは全く思ってもいませんでした。これから先も、どのように変化していくか想像もつきません。しかし、何が起ころうとも、自分や人との関わりを大切に気持ちや心が通じ合う喜びを忘れずにいてください。そして、一人ひとりが前を向いてたくましく歩いていく力を身につけてほしいと思います。

いまだかつてないコロナ禍の中、「誰も知ることもない明日」へ向かって。

1年

「四つ葉」これは一年生の学年目標です。夏休み前の集会で学級委員より学年紹介がありました。幸せが訪れる学年にしたいという学級委員の思いが込められています。夏休み明けは、残念ながら分散登校という形でのスタートとなってしまいました。それでも、1年生らしく元気な姿を見せてくれました。9月はクラス全員がそろって活動することはできませんでしたが、これからも学年目標に向かって、幸せあふれる学年になるよう、それぞれが自分の力を発揮してくれたらと思っています。

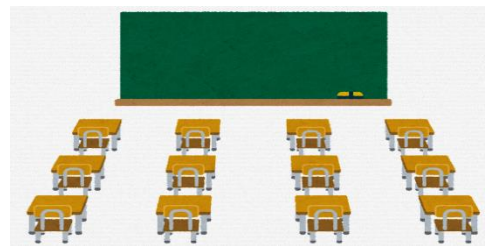


2年

夏休みが終わっても、クラス全員で顔を合わせることができないまま、前期期末試験を迎えました。学活でのつかの間の再会・・・生徒たちの笑顔、はずむ声。4月からの数ヶ月で、クラス全員のつながりがいつの間にかしっかりできあがっていたのだと再認識しました。

分散登校が続く中、AB 両グループはオンライン学活を行って一緒にレクをしたり、教室のホワイトボードにメッセージを書き合ったり、クラスがひとつになるために様々な工夫を重ねていました。あるクラスに、こんなメッセージを書いていた生徒がいました。「会えないのは寂しいけど、学校がないのはもっと寂しい。去年の4月にそう感じた。しかし、今は学校がある。分散登校だけど、クラスの仲間に会える。それだけでもうれしい。」「今はいろいろ制限があり大変だと思うけど、またみんなで学校に通えるようになるまで頑張りましょう。」

いろいろな思いを抱えながら日々を過ごし、学校へと通ってくる生徒たちの希望が消えないように、一日も早く、クラス全員が安心して学校生活を過ごせる日が訪れることを願わずにはられません。



3年

『with コロナ』の時代へ！

みなさんもお存じだと思いますが、「新型コロナウイルスとの共存・共生」を表す言葉として『with コロナ』というものがあります。生徒たちは日々、感染拡大防止のために色々なことに気を配りながら学校生活を送っています。

昨年度も、学校だよりにて同じような内容をお伝えしたこともありましたが、本年度も生徒たちが楽しみにしていた学校行事が中止または延期になってしまいました。先日、お知らせしましたが、9月に実施予定だった修学旅行が中止になりました。（2月に代わりになる校外行事を検討中です）また、中学校生活最後の『合唱コンクール』が中止になってしまいました。クラスで唄う曲や指揮者・伴奏者も決まっていただけに残念です。一つ救いだったのが今年度は『体育祭』が実施できたことです。今後も色々な場面で新型コロナウイルスに関連した対応があると思いますが、これからは『with コロナ』の時代です。今取り組んでいる日常生活における感染防止対策が当たり前の世の中になり、不平不満やマイナスなことを考えるのではなく、前を向いて今できることに全力で取り組める生徒になって下さい。また、先日の学活において今後、学級や学校が閉鎖になった場合の対応策として、学校と自宅がオンラインで通信できるように分散登校を利用して『オンライン学活』を試行してみました。自宅の端末から参加している級友たちの姿が教室のTV画面に映され、お互い画面越しに楽しそうにやり取りをしていました。この取り組みも『with コロナ』の一つになります。

